

守屋もとのり後援会加入の皆様へ

皆さま、まだまだ寒い日が続きますが、お元気でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

本日は、守屋もとのりの役所人生の原点ともいえる「北木島」へ妻がお邪魔し、皆様をお願いに上がっております。

私は、昨年12月末で37年9か月で市役所を早期退職し、市政に挑戦するべく、1月から後援会活動を進めております。皆さまには早速にご加入いただき誠にありがとうございます。

私の島との関りは「島の大運動会」「島おこし海援隊」

「NPO法人かさおか島づくり海社」とかれこれ30年近くなります。市役所在籍中も皆様のおかげで色々な挑戦をさせていただき、その経験は今の私の人生の大きな「信念」となっています。

島を支える「NPO法人かさおか島づくり海社」と共に北木島及び笠岡諸島と寄り添いながら、これからは「市民」の立場で皆さまと共に汗を流したいと思っております。今後ともよろしくお願ひします。



私の座右の銘



これは、尊敬する95歳の四角法の佐藤圭一先生からいただいたものです。「与えるを思わず、受けるを忘れず」何かにつけて「〇〇してあげたのに・・・。」と言われる方が多いように思います。「そんならせにやーええがー」といつも心の中で思っています。しかし、自分自身がしてもらった事に感謝を忘れない気持ちを持ったら、自然と「してあげたのに・・・。」と思う事も少なくなると思うのです。結構、表裏一体の事って多いですね。よく言われる他人は変えるのは難しいけど、自分を変えられる。

何でそこまで島でがんばれるの？

こう聞かれたことがあります。私の島への取り組みの原点は島めぐりクルージング（ネルトン）です。第2回目の島の若者対象のネルトンで12組のカップルが成立し、そのうち3組がゴールインしました。喜んでいたのですが、その後3組とも結婚の条件が「島を出る事」ということでした。一人は当分神辺から2時間かけて島の工場へ通勤していました。この事業で当事者の実行委員が殆どカップルになり、それを応援する「おせ」の実行委員が親身になってお世話してくれる姿は島づくり大きな可能性を感じました。そんな、島の何も知らないクセに、結婚の条件として「島を出る事」が許せなかったのです。その後、島の大運動会、島おこし海援隊と私の中でこの島は不便というだけのイメージを払拭したい。この流れを反対にしたいと単純に思ったのです。当時は、パソコン教室を島でする、ヘルパーの2級講座を陸より先に島でするといった感じです。悔しい原体験です。

島は課題先進地、25年先取、25年の実績

現在の笠岡市の高齢化率は25年前の島の高齢化率です。島では25年の課題の先取、25年の取り組みの実績があるのです。この25年の取り組みの実績は必ず陸地部でも活かせるはずです。例えば介護事業です。参入する事業者がいないので島民がヘルパーの資格をとってデイサービスを立ち上げました。そして、親の介護が必要になって来た時には自分の親を預けて仕事としてサービスを行っていました。島づくり海社は私がいたころは外向けの打ち上げ花火的なことが多く、目立ちました。島民が本当に動き出すと、地域の課題であった介護事、最期まで島で暮らしたいという高齢者の要望に応える形での事業展開にそして雇用も増え、現在では雇用数50名、予算規模も1億円を超える組織になっています。行政頼みではない、地域住民組織の構築により第2市役所的な取り組みができるこの仕組みが他の模範ともなっています。

守屋もとのり後援会事務所

笠岡市東大戸2451-3 0865-63-0579

守屋もとのり 携帯：090-5374-1333

よし今だ新聞→

